

野鳥たより

—北海道—

第56号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和59年6月21日



サカツラガン 上川郡下川町下パンケ 1983・10 撮影 松本光二



もくじ

探鳥地案内	2
鳥の書票	土屋文男 3
クマガラ発見	和田 淳 4
国後島・野鳥の四季(3)秋	藤巻裕蔵 5
昭和59年度総会経過報告	7
探鳥会報告	藤の沢・野幌・ウトナイ湖・野幌 8
探鳥会案内	11
鳥民だより	11
編集後記	12

ウトナイ湖 サンクチュアリ

探鳥地案内

(25)

カモ、ハクチョウ類やオオワシ、オジロワシも見られます。5月中旬～7月初旬は夏鳥の季節。シマアオジ、オオジシギ、アオジなど草原や林ではすばらしいさえずりが聞かれ、9月頃まで原野の花も楽しめます。

5月及び8～9月はシギ、チドリ類の季節。4月の中旬から北の国へ飛び立ったガン・カモ・ハクチョウ類は9月～11月にかけてウトナイ湖にやってきますが湖が全面凍結する頃、多くは本州に南下します。冬期はネイチャーセンターから間近のところ、キツキ類、カラ類があいさようをふりまいてくれます。又200羽前後のオオハクチョウとワシ類はここで冬を越します。

◆連絡先 〒059-13 苫小牧市植苗150-3 ウトナイ湖サンクチュアリ・ネイチャーセンター
Tel 0144-58-2505

◆位置 苫小牧市植苗

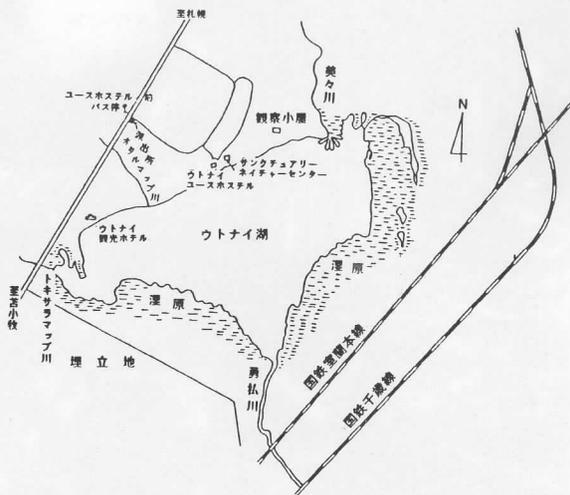
◆交通 札幌からは、苫小牧、登別温泉方面行き、苫小牧からは、千歳空港、札幌方面行きに乘車。ウトナイ湖ユースホステル入口で下車(特急は止まりません)。道南バス、中央バス、苫小牧市営バスを利用。バス停よりネイチャーセンターまで徒歩10分

◆概況 サンクチュアリとは「野生生物が安全に生息できるように確保され保護されている地域」のことです。北海道の勇払原野にあるウトナイ湖は、今までに確認された鳥が234種。日本でも屈指の渡り鳥の中継地です。苫小牧市の協力を得て、昭和56年5月に日本野鳥の会が多くのボランティアと善意の基金をもとに、周辺の原野森林を含めた511haをサンクチュアリにしました。常駐のレンジャーがその保護、管理を行っています。

◆ネイチャーセンター利用案内 開館時間：午前9時～午後5時、閉館日：毎週火・水曜日、入場料：無料ですがネイチャーセンター内の募金箱にご協力下さい。※団体利用の場合2週間前までに連絡を下さい。

◆探鳥コース ネイチャーセンターより湖面及びエサ台の鳥が見られます。約1時間でまわれるネイチャートレイル(探鳥コース)もあります。(コース以外の立入りはご遠慮下さい)。

◆見られる鳥たち 氷が溶け始める3月～4月は湖が最もにぎわう季節で数千のガン、



鳥の書票 土屋 文男

最近アウト・ドアーに関する図書の出版も盛んで、野鳥やバード・ウォッチングについても数多くの本が販売されています。

『晴れ好(よ)く、雨また奇なり』というコトバがありますが、晴れの日には鳥を眺め、雨の日には鳥の写真集や本を読むのも趣きのあることと考えています。

昔から「蔵書印」というのがありました。何々蔵書とか、何々愛玩という文字を入れたもので、わが

(1) 国での歴史は古いものです。



一方、ヨーロッパには、自分の蔵書に「蔵書票」をはることが盛んでした。最近、私は大切にしている鳥の本には、蔵書票をはることにしています。また、コレクションとしても、小版画として額に入れることも楽しいことなのです。

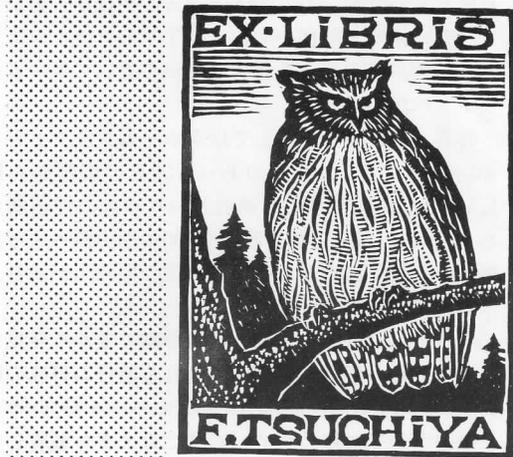
外国の鳥を通じての友人との交換をすることもでき、「鳥の世界」のおつき合いの広くなって行くことも事実です。

現在では、蔵書票というより、『書票』というコトバが市民権を得て、こちらの方を使っています。(1)は道版画協会の松見八百造氏の作、5色刷りの美しいものですが、残念ですが本誌では判明しません。

(2)



(3)



(4)



(2)は松見氏同様北海道新聞紙上のカットでお目にかかる宝賀寿子さんの作、リング園の得意な作家。(3)(4)は、皆さんよくご存知の全道展の手島圭三郎氏の作品。過去にシマフクロウとハクチョウの版画による図書が出版されています。来年はクマガラだそうです。今まで40人ほどの作家にお願いして書票を作ってもらいましたが20-30枚限定、多くて51枚限りですから、こうした点では希少価値があります。しかし、会員の中には「バード・カービング」や彫刻の達人も多いことですから、書票などを作ることは不可能ではなさそうです。

(前本会副会長、日本書票協会会員)

クマゲラ 発見

和田 淳

昭和59年1月14日(土) 天候 曇～晴～雪

この2、3日悪天候が続き、愛機を撫して空ばかり眺めていたが、「日中晴れますが、午後から雪になり、明日は吹雪模様……。」とのTVのアナウンスを聞き、西の空の青さを確認してから急いでホームグランドへ出かける。

昨春、現在校へ赴任して以来ホームグランドとしているのは、元、銅山のあった国富の市街から約1,500m程岩内寄りに下湧別というバスの停留所があり、そこから八号橋を渡って700m程山側へ入った雑木林一帯で途中に、川幅30m位の掘株川があり、水辺の鳥も観察できる所である。

今日の目的は、1月9日に八号橋の上から発見したヤマセミの観察と、天候の荒れる前日の野鳥の動向を知ることである。

橋の手前50m程の所で、三脚にカメラを装着してから、双眼鏡で川の近辺を探ぐるが、ブルが除雪した雪の壁でよく見えない。

三脚を担いで静かに橋の上まで移動する。先日発見した辺りの樹木を双眼鏡で丹念に調べるが、ヤマセミの姿はどこにも無く。只、カワガラスの声だけが陰気に響いていた。

時計を見ると13時10分。そのまま、三脚を肩にして山へ入る。何時になく小鳥達の声が樹間をにぎわしている。シマエナガ・ハシブトガラ・アカゲラ・



コゲラの混群だ。特にコゲラの数が普段より多く、コツコツコツと人影など気にせず夢中で樹木の幹や枝をつついてた。どれも、アルバムに形よく収まっている連中なのでカメラを構えずに観察を続けていたが、仲々移動しない。やっとシマエナガやハシブトガラの声が遠のいたころ三脚を担ぎ直して坂を登る。

ちょうど橋の袂から150m程来た時、道路の右手の林から、今度は、コンコンコンという音が聞こえ

てきた。「おっ、これはアカゲラだろう。」と思い、三脚の足を開いて構える。20m位先の白い肌を出した枯れ木の辺りだ。

雪を乗せた枝の間から、やっと赤い後頭部が見える。上半身が出て横を向く。

「ギョッ!ばかでかい嘴。」
……「クマゲラだ!」……

「シャッターを押せ!」
……「いや、一発目のシャッター音で逃げたら困る。出来るだけ良いアングルで。」

……「一発も押さないうちに逃げたらどうする。」……

「仕方ない、枝が邪魔だけ



ど押すぞ。」「カシャッ！」まだ気付かないのか、横
回りで幹をつついていいる。「ようし、なんとか全身の
見える所から……。」と、三脚を静かに持ち上げる。
「イテテッ！」安物の三脚に指をはさまれて立往生
……。この無言劇の騒ぎに気付いたのだろう。徐々
に上にあがり出す。人形のような白くて大きい目がと
ても印象的だ。そのままチャンスをおねらってシャッ
ターをおとす。その途端、ひらりと道路の左側へ飛
んで太い樹の下へ止まる。やっと全身が見えた。慌
ててピントもそこそこにシャッターを押す……。

その後、腰まで雪に埋まり汗を流して追うが、も
のにしたのは、結局、この5枚だけであった。

このフィールドは、昨年の8月、「オオタカの親子
の発見（鳥類保護連盟の齊藤氏判定）」に引き続き、
今年ヤマセミ・クマガラの発見と楽しみの多い所
であるが、昨秋から、農業用道路の建設が始まった
との風聞があり開発の波に押しつぶされるのではな
いかと気になる此の頃である。



国後島・野鳥の四季（3）秋 藤巻 裕蔵

秋は8月中旬から11月中旬までの3カ月である。
秋の間中移動が見られ、渡り鳥が国後島から去り、
北で繁殖した鳥が渡来する。

8月中は多くの鳥類が繁殖後に移動し、換羽をす
る月である。この時期には森林性の渡り鳥が家族群
で移動し、8月末には越冬地へ向った。水鳥は群と
なり、湖沼に採餌にやってきた。イソシギが去り、
国後島より北で繁殖したメダイチドリ、タカブシギ、
ソリハシシギ、トウネン、チュウシャクシギなどの
シギ類が渡来した。移動するカワセミも見られた。

ウミネコやオオセグロカモメの大群が漁場近くや
漁業コンビナートに集まった。8月上旬には日本で
繁殖したトビがやってきた。この鳥はカモメ類のよ
うに漁業コンビナート近くにやってきた。8月末に
はフルマカモメ、ウ類、カモ類、カモメ類、ウミス
ズメ類が根室海峡で見られた。カッコウやツツドリ
は去りはじめた。

8月にはおもにキク科の花が咲いた。灌木ではノ
リウツギやイボタの花が咲いた。ヤマグワ、エゾイ
チゴ、ニワトコなどの実がなり始めた。この月の上

旬にはアブが大量に発生し、林ではセミの鳴声が絶
えることがなかった。

9月前半には全部の鳥の繁殖は終了していた。例
外として1962年9月初に色丹島で2回目の幼鳥に給
餌しているスズメやコヨシキリとウグイスの巣立幼
鳥が見られた。家族は群となり、渡り鳥は越冬地へ
去り始めた。9月の前半にカッコウの幼鳥、イワツ
バメ、ツバメ、コサメビタキ、オオルリ、エゾビタ
キ、ホオアカ、シマアオジが渡去した。ヒバリやコ
ムクドリが大群となった。シマセンニュウ、マキノ
センニュウ、エゾセンニュウ、ノゴマ、ウグイス、
モズ、アオジ、ホオジロが移動し始め、やがて渡去
した（表3）。

漁場にはトビ、オジロワシ、ウミネコ、セグロカ
モメが集まってきた。アビ、フルマカモメ、ウ類、
ウミスズメ類が移動をつづけていた。シジュウカラ
類、ゴジュウカラ、キバシリ、キクイタダキ、コゲ
ラからなる食虫性の森林の鳥の群の行動範囲が広が
り、灌木林や住宅地で見られるようになった。イソ
シギ、ハマシギ、トウネン、ヒバリシギ、タシギ、

ハリオシギ、ヤマシギ、チュウシャクシギなどのシギ類が9月いっぱい国後島を渡っていた。

9月初めには多くの植物の生育が終った。ツタウルシの赤い葉やカンバ類やヤナギ類の黄色い葉は秋の始まりを知らせてくれる。草原ではどこでもヨツバヒヨドリ、コガネギクが咲き、森林ではノリウツギの花が咲いた。イチイやエゾスグリの実が熟した。9月中旬にはいろいろな草が生えている山は黄褐色になった。昆虫は少なくなり、カ、ブヨ、アブはまったくいなくなって、セミは鳴かなくなった。9月には長雨が続き、霧がかかり、強い北風が吹くようになった。

9月後半にも渡去が続いた。アマツバメ、アリスイ、コルリ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、エゾセンニュウ、キビタキ、モズが去り、クイナ、バン、キジバト、トラツグミ、アカハラ、ビンズイが去り始めた。ツグミ、シロハラ、メボソムシクイ、サメビタキ、タヒバリ、といった国後島より北で繁殖した渡り鳥が群で現われた、この時期にキツツキ類やシジュウカラ類が長い距離を移動し、まれに近くの島へ行くことがあった。例えば1962年の9月にはヒガラの群が森林のない水晶島の草原で見られたし、アカゲラが勇留島と秋勇留島の樹木のないところで見られた。

9月末にはハンノキ、スグリ、ナナカマドが落葉しはじめ、ヤナギ、キハダ、ダケカンバ、ヨグソミネバリが落葉した。コガネギクやヨツバヒヨドリの花が咲き、イバラ、ハマナス、ミヤマタタビ、タラノキ、ウド、オオウバユリが実った。1962年9月末には国後島と択捉島の山の頂には初雪が降り、この年の9月末まで雨のない天気が続いた。

10月いっぱいアカハラ、ルリビタキ、コマドリ、ノゴマ、ウグイス、カヤクグリ、マヒワ、シメ、クロジ、ホオジロ、カシラダカの渡りが続いた。タヒバリ、アトリ、ハギマシコ、オオカワラヒワの大群が現われた。川の上流で繁殖したカワガラスが河口近くや海岸にも現われた。オオタカ、ハイタカ、ツ

ミ、ノスリ、ハイイロチュウヒといったタカ類も渡った。湖にはマガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサ、ウミアイサのカモ類やカイツブリの群が現れ、国後島の沿岸部にはアビ、フルマカモメなどの海鳥が移動していた。

1962年の10月の国後島の天気は良く、暖かな南、南東の風が吹いた。10月前半にハリギリ、キハダ、イタヤなどの樹木が落葉し、10月後半にはホオノキ、チシマザクラ、シウリザクラ、ツタウルシ、ノリウツギ、カンバが落葉しはじめた。サルナシ、ミヤマガマズミ、オオカメノキ、ツルシキミ、ヤマブドウ、チョウセンゴミシの実がなり、月末にはホオノキの種子が熟した。10月初には川で秋のサケの産卵が始まり、サケを追って産卵場所にワシタカ類、カモメ類、カラス類が現われた。

11月中旬にキジバト、ルリビタキ、トラツグミ、シロハラ、マミチャジナイ、カヤクグリ、クロジ、オオジュリン、カシラダカの渡来と渡去が終った。ツグミ、ハギマシコ、カワラヒワの渡る数が減少した。国後島で越冬するキレンジャク、オオモズが現われ、オオアカゲラ、アカゲラ、シジュウカラ、ヒガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラがわずかに移動しつづけていた。カケス、ホシガラス、ギンザンマシコのほか、カラ類、ゴジュウカラ、キバシリ、コゲラの混群も見られた。ハシボソガラスとハシブトガラスの群が海岸、人家周辺に集まってきた。11月にはカラスの隠し場にキハダ、ツルウメモドキ、ツタウルシの実がよく見られた。

11月にマガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、アイサ類の渡来と渡去が終り、カイツブリはほとんど去った。国後島の沿岸では海鳥の移動が続いた。

11月初には大部分の樹木の落葉が終ったが、最初の寒さがやってくるまでヤマグワやツルアジサイは緑色をしていた。また、川には産卵後のサケの死体が見られるようになった。

表3 国後島における1962年の終認記録

イワツバメ	9月25日	ウグイス	10月25日	トラツグミ	11月8日	マミチャジナイ	11月11日
カッコウ	9月25日	コマドリ	10月25日	カイツブリ	11月8日	カヤクグリ	11月13日
アマツバメ	9月25日	アオジ	10月25日	クロジ	11月11日	モズ	11月14日
ノビタキ	9月25日	ムクドリ	10月26日	オオジュリン	11月11日	タヒバリ	11月24日
シマセンニュウ	10月4日	キセキレイ	10月29日	カシラダカ	11月11日	ハクセキレイ	11月25日
ビンズイ	10月17日	ルリビタキ	10月29日	キジバト	11月11日		
ノゴマ	10月17日						

昭和59年度總會経過報告

と き 昭和59年4月21日(土) 午後2時～4時30分

ところ 札幌市婦人文化センター

総会は柳沢信雄幹事を議長に選出した後、次の事項について審議が行なわれ、原案どおり成立しました。

1 昭和58年度事業報告、決算報告、監査報告について

<事業>

- (1) 探鳥会(昭和58年4月から59年3月まで12回実施)
- (2) 野鳥だよりの発行(52号から55号まで4回発行)
- (3) その他の活動
 - ・新年懇談会の開催
 - ・野鳥写真展の開催
 - ・傷害保険の契約

<決算>

収入-支出=差引残額767,790円

<監査>

野村監事により適正なものと報告されました。

2 昭和59年度事業計画及び予算案について

<事業>

- (1) 探鳥会(昭和59年4月から60年3月まで17回開催)・従来の探鳥地の外、新たに東米里、張碓、円山で探鳥会を開催する。また、千歳市で1泊探鳥会を開催する。
- (2) 野鳥だよりの発行(56号から59号まで4回発行)
- (3) その他の事業
 - ・新年懇談会の開催

- ・野鳥写真展の開催
- ・会員名簿の作成
- ・探鳥会記録集合表の作成
- ・絵はがきの作製
- ・ネクタイピンの作製

<予算>

原案どおり成立

3 役員選出

会長、副会長、監事に交替がありました。また、幹事の梅木賢俊氏、岡田幹夫氏、天童雅俊氏が転勤のため、飯山五玖子氏が多忙のため、北尾諭氏が健康上の都合で退任されました。総会後の幹事会で代表幹事並びにそれぞれの担当が決まりましたのでお知らせします。

会 長 荻野寿衛吉

副会長 谷口一芳、柳沢信雄

監 事 新宮康生、野村梧郎

代表幹事 小堀煌治

会計幹事 渡辺紀久雄

総務幹事 ○岩泉ゆう子、片岡秀郎、小堀煌治、清水朋子、大坊幸七、柳沢千代子

探鳥会幹事 ○長谷川涼子、関口健一、富川 徹、中野高明、早瀬広司、平井さち子、堀内 進、道川富美子、屋代育夫、渡辺俊夫

広報幹事 ○霜村耕一、紅林雅文、白澤昌彦、萩千賀、羽田恭子、猿子正彦、村野紀雄、横田通典

(○印は各担当代表者)

昭和58年度決算・収入の部

区分	決算額	予算額	摘要
繰越金	313,456	313,456	
会費	636,500	601,500	
寄付金	500	10,000	1件
参加費	44,000	0	新年懇談会 27,500 鷹の沢 16,500
売上金	229,730	220,000	野鳥だよりのバックナンバー 29,730
雑収入	110,808	5,044	副賞 100,000 預金利息 10,808
計	1,334,994	1,150,000	
会費受分	151,000	0	
合計	1,485,994	1,150,000	

昭和59年度予算・収入の部

区分	予算額	摘要
繰越金	616,790	
会費	658,500	421名 6団体
寄付金	10,000	
参加費	40,000	新年懇談会 他
売上金	210,000	野鳥だよりの 200,000 他
雑収入	4,710	
合計	1,540,000	

昭和58年度決算・支出の部

区分	決算額	予算額	摘要
印刷費	324,600	490,000	野鳥だより 300,000 総会案内 24,600
通信費	154,485	192,000	だより発送 116,270 切手、はがき代 38,215
会議費	82,895	91,000	総会 7,200
消耗品費	25,304	15,000	あて名用紙 コピー代 他
賃金	4,740	20,000	野鳥だより発送 他
報償費	89,800	67,000	探鳥会手当 他
予備費	36,380	275,000	傷害保険 他
合計	718,204	1,150,000	

昭和59年度予算・支出の部

区分	予算額	摘要
印刷費	520,000	野鳥だより 400,000 名簿 60,000 他
通信費	250,000	野鳥だより発送 180,000 他
会議費	140,000	総会、幹事会
消耗品費	46,000	腕章、事務用品 等
賃金	20,000	野鳥だより発送
報償費	155,000	探鳥会手当 他
その他	409,000	傷害保険 他
合計	1,540,000	

※総会の結果については、上記に記載のとおりですが、総会で決った細かな内容、役員交代について、次のとおりお知らせいたします。

<事業内容について>

- 1 探鳥会については、これまで、月1回、年12回実施してきたが、本年度は17回とし、新たな探鳥地として札幌市白石区の東米里、同中央区の円山、小樽市の張碓を加えたほか、千歳市で1泊2日の探鳥会を開催する。
- 2 探鳥会の際、昨年度から参加者にネームプレートをつけてもらっていますが、本年度から、探鳥幹事には腕章をつけることとする。
- 3 昭和60年5月に野幌森林公園において「野鳥保護のつどい」が開催されるが、この機会に本会の存在を全国的に知ってもらうことなどからも、会員の写真をもとに、絵葉書きを作製する。
- 4 昭和45年に本会が発足した後、継続して探鳥会を実施してきた探鳥地について、観察された鳥の集計を行い記録に残しておくこととする。
- 5 入会案内用の葉書きを、改めて印刷することとする。
- 6 会員相互の情報交換などのために、会員名簿を

作成する。

- 7 昭和56年度に作製したフクロウのネクタイピン、タイタックの在庫がなくなったことから、再度作製することとする。

<役員について>

創立以来、役員として御尽力いただき、本会の発展に多大なお力を発揮くださいました、井上会長をはじめ、副会長、幹事の皆様に心からお礼申し上げます。

59年度は新役員による再出発の年にしようと、大幅な役員交代がまじりました。

旧役員の皆様には引き続き、本会の顧問をお願いし、新役員の方の心の支えになっていただき、更に先達者として本会の運営等に適切なお助言、お力添えをいただくことになりました。

顧問 犬飼 哲夫 井上 元則 斉藤 春雄
佐々木 勇 新妻 博 土屋 文男
小沢 広記 野口 正男 亀屋紋十郎

長い間、本会の為にご尽力いただきありがとうございます。今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。



藤の沢

「小鳥の村」とはどんな所だろうと期待に胸をふくらませつつ、初めてこの会の新年会に出席させて頂きました。会場は多勢の人達の熱気でいっぱい。野鳥達のレストランも満員札止めの盛況です。入れ替わり立ち替わり目まぐるしく飛び交う野鳥の群を見逃しては、一生の一大事。必死で双眼鏡をにぎりしめ乍らも野鳥を愛する人々

59. 1. 24 田上 悦子

の暖かさと優しさが、ふと触れ合った肘を通してしっかり伝わりました。

井上会長さんのお言葉や環境庁長官表彰を受けられたという小沢村長さんのお話等を通して、こんな形で人間が鳥達に関わって行けるのだと解り、目の前が開けた思いが致しました。昼食に出た豚汗の思い出だった事、クイズを通してちょっぴり鳥通になった事、そしていっぱい野鳥の名前をおぼえて帰った有意義な一日でした。

〔記録された鳥〕 トビ、アカゲラ、ヒヨドリ、ツ

グミ、ハシプトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシプトガラス 以上12種

〔参加者〕 井上元則、新妻 博、金谷美也子、船尾恭子、田上悦子、斉木源太郎・大二郎・雅信、松井由紀子、五十川ハナ子・祐至、今川義雄、横田通典、高山富美、大坊幸七、原田嶺子、神野 拓・敬子・尊・さち子、早瀬広司、佐藤カヅエ、工藤敏人、戸津高保・以知子、小川 巖・浩一郎、佐藤健太郎、宮田 眞、園部恭一、萩 千賀、塩村省三、渡辺

幸、鹿島憬策、高桑俊司、羽田恭子、石田正昭、堀内 進、栃本文子、山本みね子、清水明子・亜樹子、武沢佐知子・和義、泉屋宣志・恵津子、曾根モト、柳沢信雄・千代子、谷口一芳・登志、岩泉ゆう子、宮本勝美、田中静江、西村辰夫・千世子、野口正男、佐藤輝夫・昌子・北斗、小野寺耕三、小堀煌治、道川富美子、後藤美民・遵義、長谷川涼子、以上66名
〔担当幹事〕 小堀煌治、道川富美子、長谷川涼子
〒060 札幌市中央区北4条東4丁目第4 麦屋寮

野 幌

59. 2. 19

清田 吉晴

毎回おくれて行くので今回は少し早めに家を出た積りだったが結局大沢口で定例におくれる事10分、白石区の歩くスキー大会の役員の方に聞いて、とにかく右手エゾユズリハコースに入る。いつもならきまって反対から入り昼頃一緒になったり、全く会わなかったりするのだが、今日は5分程で追いついたので運の良い方だ。

降る雪の中での観察なので大変。大事な双眼鏡はマフラーで包めと教えてくれたが、あいにく何もない。余分の軍手を接眼レンズにスポット被せて雪よけとする。

ちょうど歩くスキーの人達の逆コースになったため、一団体が通り過ぎるまで道をあけるはめになった。その間もあちこち眺めるが霏霏と降る雪ばかりで余り収穫はない。環状線を左に入り大沢園へ、ここで昼食をとる。キツツキとカラ類が大半であったが、ここで見たウソは今年始めて、そして帰りのコースではるか梢に居たキクイタダキが珍しかった。

昨年2月に来た時、偶然、クマゲラを見つけしばらく林の中を追いかけた所で、又、出て来ないかとちょっと待ってみたが、結局はだめ、非常に残念。足の方は西洋輪かんじき？つぼ足、スキーの人と様々である。

百年記念塔の事務所で新品の歩くスキーを借りて

来た人もいた。この様に施設が整い四季それぞれを楽しむ自然公園がすぐそばにある札幌の人達がうらやましいと思ううちに出発にもどって来る。

鳥合わせで16種確認されたが一人で歩いてはまず、この半分も見つけられないだろうと思う。終わったあとで、一緒にクマゲラの出現を期待していた某氏が、一句披露する。「そり返りキクイタダキをあおぎたり」

時にははげしい雪の中の探鳥会であったけれども、振りあおぐ樹々の梢に確実に春の息吹きを感じさせる一日であった。又、次の機会には是非参加し、いろいろと教えていただこうと思ひながら帰路につく。

〔記録された鳥〕 ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシプトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、マヒワ、ウソ、カケス、以上16種。

〔参加者〕 高崎一夫、戸津高保・以知子、清田吉晴、田辺 至、大坊幸七、関口健一、白沢昌彦、柳沢信雄・千代子、道川 弘・富美子、屋代育夫、長谷川涼子、以上14名

〔担当幹事〕 屋代育夫、道川富美子
〒047-01 小樽市桜2丁目30の10

ウトナイ湖

59. 3. 25

柴内千鶴子

探鳥会なる言葉は時折、耳にはするのですが、遠い世界の事、でも一度は…とあこがれるものがあり

ました。ところがチャンスは以外にも早く訪れたのです。何げなく目にした新聞の伝言板に束縛のない、

気軽な呼びかけに心が動かされました。

当日、心踊らせてウトナイ湖に行ったのですが、会の方々とお逢い出来ず、帰ることにしたものの仲々、諦め切れず、白鳥を見て居りました。そのうち会員の方々が集まり始め、「アオサギの群れですよ…」など説明され、私も話には聞いていたアオサギの飛ぶ姿に見とれていました。すると、お世話下さる方から、とてもやさしくお誘いを受け、御一緒させて頂く事が出来ました。

初めての上、子連れで何かと足手まといになりがちでしたのに、本当に御親切にして頂き、鳥を見られた事と共にうれしく思いました。

望遠鏡をのぞかせて頂き、野鳥の美しさを初めて知りました。名前が分って鳥を眺める満足感は最高でした。まだ雪が多くあり、歩くのも大変でしたが湖に沿ってネイチャーセンターに行きました。途中大雪原に立つ一羽のチドリが印象的でした。初めて訪れたのですが、センターの活気のある事、資料や設備の豊富な事、お世話されている方々の感じの良さなど驚くことばかりでした。

勝手が分らず、出発点にお弁当をおいてきた私達は又訪れる事を心に決め一足お先きに、元来た道をもどりました。子供と子ども、空腹を全く感じなかった

のは、沢山の野鳥を自分の目で見定めた満足感からなのでしょうが身も心もとても軽くたどり着く事が出来ました。

曇り空でしたが、風もおだやかで、心地良い汗を流す事も出来、とても感動的な、早春の一日でした。これからも色々な事に野鳥と共に会いたいと思いました。お世話役の方々と会員の皆様、本当にありがとうございました。

〔記録された鳥〕 アオサギ、ヒシクイ、オオハクチョウ、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、オジロワシ、オオワシ、コチドリ、ユリカモメ、アカゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コブハクチョウ、以上22種

〔参加者〕 柴内五男・千鶴子・佐知子・孝、堀内進、浪田良三・典子、長岡宏幸・範子・滋雄・ゆり子、道川 弘・富美子、後藤義民・りょう子、金島良子、曾根モト、萩 千賀、大坊幸七、羽田恭子、西沢宣道、乙江、福井スエ、戸津高保・以知子、岩泉ゆう子、長谷川涼子 以上27名

〔担当幹事〕 羽田恭子、長谷川涼子

〒066 千歳市自由ヶ丘2丁目16の2

野 幌

59. 4. 22 平川 悠子

私にとって生まれて初めての探鳥会は、とても春とは思えない気温6度の4月22日のことでした。北広島からの車中・人目を気にしていたダウンジャケットも、一枚余分にしのばせたセーターもしっかり役に立ちました。まだ芽吹いていない樹々はモノトーンの繊細なペン画のようです。私は胸いっぱい風の匂いを吹きこみながら先輩の方々の後について歩いて行きます。「あれはヒガラ」「あっ、あれはハシブトガラ」と短かく、小さな声にも素早く識別される様子が驚嘆の目を向けつつ、私の視線は右往、左往しますが視界を横切るの小さな点のみでした。予想以上の残雪で長靴の用意は勿論のこと、手袋、毛糸の帽子の必要も感じました。それでも季節の訪れは確実にやって来て猫柳の枝先が銀色にふくらみ曇り空に、ちょっぴり華やかさを添えています。

大木に反響するクマガラの音に驚き、アオサギの舞いに感激しました。水辺は枯草が多くて寒々としていましたが、まだ氷の浮いている池ではヒドリガ

モがふんわりと姿を見せています。望遠鏡で見せていただいた鳥は、遠くにいるのに、手のひらに乗せて包みこんでやりたいような感触すらあるのです。一日も早く、私も肉眼で見た目標を、もっと良く観察できるように上手に双眼鏡を使えるようになりたいものです。

温かな血が脈打ち、生きて動いている鳥達の鮮やかな色彩の美しさは本当に印象的でした。同行の方々のさりげない心遣いや、暖かさが、初参加の私にはとても嬉しく、今年は何回、参加できるだろうかとスケジュール表を眺めています。そして、いつか車椅子の人達と、この大自然との新鮮な出会いの喜びを、ぜひ分かち合えるよう真剣に考えています。今回の探鳥会にお誘い下さった品田氏は、私の町内の会長さんですが新しい地域活動の一環として自然を通しての人間同志の心地良い連帯のあり方を示して下さいました。心よりお礼を申し上げ探鳥会の報告といたします。

〔記録された鳥〕 アオサギ、ヒドリガモ、トビ、
ハイタカ、キジバト、ヤマゲラ、クマガラ、アカゲ
ラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、
ヒヨドリ、ツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブ
トガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、
カケス、カラスSP 以上22種

〔参加者〕 浅沼佳代子、大坊幸七、後藤遵義・義

民、羽田恭子、早瀬広司、平川悠子、五十嵐優幸、
岩淵年男、岩泉ゆう子、河村ましほ・美知子、道川
弘・富美子、長岡宏幸・範子・ゆり子、浪田良三、
沢野淳司、品田延一、霜村耕介・耕一、澄村興平、
田辺 至、戸津高保・以知子、屋代育夫、横田通典

〔担当幹事〕 大坊幸七、屋代育夫、早瀬広司
〒061-11 広島町稲穂町西2丁目4-4



〔鶴川〕 昭和59年8月
26日(日)、午前9時10分
国鉄鶴川駅集合。(札幌発
午前7時26分急行えりも
2号)

〔野幌森林公園〕 昭和
59年10月28日(日)、午前
9時30分大沢駐車場入口、または百年記念塔午前
8時30分集合。

<野幌森林公園を歩きましょう>

昭和59年9月23日(日)、10月7日(日)、午前
9時30分大沢駐車場入口、または百年記念塔午前
8時30分集合です。

いずれの探鳥会も、ひどい暴風雨でないかぎり
行います。昼食、筆記用具、観察用具をご用意下
さい。

探鳥会のお問い合わせは、早瀬011-611-0949ま
で。



◆定例幹事会報告

59年2月1日(水)18時
30分～21時、札幌市民会
館会議室、出席幹事8名
〔審議内容〕

1. 新年懇談会報告、出

席者62名

2. バードウィーク写真展開催について
3. 58年度の総会日時決定について(以上総務担
当)
4. 新年藤の沢探鳥会報告 出席者66名
5. 1泊早朝探鳥会決定について
6. テキストの今後の利用方法について
(以上探鳥担当)
7. (財)前田一步園の副賞と繰越金の使用方法に
ついて (以上会計担当)
(会員名簿作成及び、タイタック再製作等に使
う案ができました)
8. 野鳥だより55号の編集進捗状況について

◆定例幹事会報告

59年3月7日(水)18時30分～21時、市民会館会
議室、出席幹事14名
〔審議内容〕

1. 当会对する「緑の国勢調査」の依頼について
2. 北海道新聞社からの生物原稿依頼について(以
上総務担当)
3. 野鳥だより55号の編集状況について
4. 野鳥だよりの見直しについて(以上編集担当)

5. 59年1泊探鳥会の人数について(150名まで可)
6. 59年の探鳥日程について(以上探鳥担当)
7. 59年度会費納入の通知方法について
(会計担当)
8. その他 役員人事について

◆定例幹事会報告

59年4月4日(水)、18時30分～21時 札幌市民
会館、出席幹事12名。

〔審議内容〕

1. 4月21日(土)に開催予定の総会の議題について、
総務、探鳥、広報、会計の各担当業務ごとに順
に協議した。(総会経過報告参照)
2. 入会案内用のハガキを印刷し直すこととした。
3. 会員数は、現在、団体が6団体、個人が426名
と 昨年と同時期より幾分減少している旨報告が
あった。

◆定例幹事会報告

59年6月6日(水) 18時30分～21時、札幌市民
会館会議室、出席幹事9名

〔審議内容〕

1. 三菱信託銀行ロビーで開催した野鳥写真展の
収支決算について報告があった。
2. ネクタイピン、タイタックの作製に要する費
用の概算額について報告があった。
3. 農林中央金庫札幌支店では、7月2日～11日
まで森林浴のパネル展を開催するため、野鳥だ
より及び入会案内書の提供を願いたい旨の依頼
があり、協力することとした。

4. 本年度中に発行予定の野鳥だより編集計画表(第56号～59号)が出席幹事に配布された。
5. 会員名簿の作成に当たって、全会員にハガキで住所、氏名等の確認をすることとした。
6. 千歳市における一泊探鳥会について、結果報告があり、好評のようなので、来年度も実施する方向で検討することとした。

◆野鳥写真展を開催

バードウィークにちなんで、恒例の野鳥写真展を5月10日から26日まで、今年も三菱信託銀行のご協力をえて同行ロビー(札幌市中央区北4西4)で開催いたしました。ひとりで多数応募された方の作品のうち割愛せざるをえないものもありましたが全紙大から四ツ切まで約30点の作品を展示させていただきました。すばらしい写真を出品してくださった方々に厚く御礼申し上げます。

出品者 伊藤正清、紅林雅文、小堀煌治、霜村耕一、土屋文男、野村悟郎、萩千賀、林大作、速水藤二郎、柳沢信雄、柳沢千代子、山本一(敬称略)

◆「珍しい鳥」の写真で絵葉書を作しましょう

会では、来年5月に本道で開催される「野鳥保護のつどい」で、全国からの参加者に配布をするなど野鳥愛護思想の普及を目的に、次の要領で絵葉書を作る計画をたてました。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

記

1. 絵葉書の対象は、本会が発足した昭和45年以降に、会員が道内で撮影した、いわゆる「珍鳥」とします。
2. 原則として1人1点採用としますが、調整の都合がありますので、ご協力下さる場合は、お手持ちの鳥名を7月30日までに事務局にご連絡下さい。なお、その際に、サービス判程度で結構ですから、プリントを添えていただくと幸いです。
3. 採否などは、59年度の総会後に開催した幹事

会で設置を決めたプロジェクトチームにお任せいただきます。

なお、ご不明な点については事務局にお問い合わせください。

◆探鳥会用のわん章について

探鳥会の際に幹事であることが参加者から一目でわかるようにするため、このたび、わん章を作製しました。

大きさは、たて10cmよこ40cm、ビニール製で緑の地に白抜きで北海道野鳥愛護会と書いております。

◆会費納入について

「会費納入のお知らせ」を同封しましたので、お確かめください。

会費は、個人1,500円、団体4,500円です。会費納入には、郵便振替(小樽1-18287)をご利用ください。

◆おわびと訂正

さきに、野鳥だより54号の鳥民だより欄でお知らせいたしました障害保険について、1日当たりの入院給付金を2,500円とお知らせしましたが、3,000円の誤りでしたので、おわびして訂正いたします。

表紙写真のサカツラガンについて

上川郡下川町下パンケに見慣れぬ大型の野鳥3羽が飛来(10月17日)、18日夜、名寄野鳥の会々長から連絡を受け「サカツラガンらしい」とのことから19日確認のため現地へ出掛けました。観察の結果、クチバシの色、頭部から後頸部にかけての黒褐色、ほおから前頸にかけての白色からサカツラガンであることが分かりました。大きさはマガンよりやや大きいようでした。図鑑(フィールドガイド日本の野鳥)に見られるクチバシの基部の白線は見られませんでした。麦畑で若い麦の葉を食べては休息の動作を5～10分毎に繰り返していました。

19日午後5時頃飛び去りました。

【編集後記】

今年は冬から春にかけて気温が低く夏夏の来訪も例年より遅れ気味と聞いています。みなさんのフィールドではいかがですか。

今年度は野鳥だよりの内容を再検討し、新しいコーナーや連載物など、わかりやすい内容のもの

も考えて、広報幹事一同、準備を進めています。鳥の情報や新しい企画やアイデア、原稿などどしどしお寄せ下さい。

名簿作成のための同封の葉書よろしく御協力下さい。(霜村)

【北海道野鳥愛護会】年会費 1,500 円 (会計年度 4 月より) 郵便振替 小樽 1-18287

〒060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465